

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**

第 139 回放送の概要 (2018 年 11 月 24 日放送)

パーソナリティ

たろう  
(佃 由晃)  
なか  
(中嶋邦弘)  
かりん  
(妹尾優香)  
くらら  
(河野真紀)



ミキサー

門ちゃん  
(門田成延)

会計

小山俊則

相談役

わだかん  
(和田幹司)

**1. ゲストコーナー (1) 小林和子さん 70 陽会 都市及び地方計画分野の技術士・1 級建築士**

**(1) 震災時のこと**

宝塚市の小林に住んでいて、凄く揺れて寝ていたロフトから立ち上がれなかった。家具が倒れる音が出て恐ろしかった。ポータブルラジオから、神戸で地震で壁が倒れて新聞配達の方が亡くなられたニュース。今の地震なら亡くなられた方がいても思ったが、そんなレベルの話では無く、大ごとになっていることは、後で友人から知らされた。テレビは当時持っていなかった。

宝塚市は神戸市と違って火事も無く、西宮への通勤途上で被害を見かけたが、住んでいた周辺ではそれほどでもなかった。阪急西宮北口から大阪へ通勤していた。

**(2) 兵庫高校時代の思い出**

部活は水泳部で3年間。中学はバスケットボール部で厳しすぎ、バスケ以外でもっと楽しくやれるところを探し、後にマネージャーになった友人に誘われ水泳部へ。泳法はフリースタイルで、よく練習したわりにはスピードが出ず成績は上がらなかった。練習は厳しい方だと思ったが、シーズンの夏には朝と放課後にトータル5kmは泳いでいた。朝練で疲れて授業中も居眠りをしていた。プールも遺跡のようで、色が黄土色、管理も部員がやっていたので、少しでもサボると藻が生えたり虫が泳いでいたりとか、全く自然の中で泳いでいた。水質的にはクチャクチャだった。

でも、先輩後輩友人に恵まれ、喧嘩もあったが、わいわいと楽しかった記憶で一杯です。

**(3) 武蔵野美術短大のこと**

大学は武蔵野美術短大に入り、専攻はデザインを学んだ。兵庫高校の同級生の磯野梨影(旧姓：古井)さんと一緒に東京で下宿し共同生活をしていた。両親の影響か、母が手作り上手で服を仕立てたり、段ボール箱に色塗りをしたり、父も凧を作って揚げてくれたり、私も何か手を動かして作るのが大好きだ

った。

当時はちょっと珍しかった空間デザインの分野で、元々は舞台芸術からきた学科、商業空間の店舗とかをデザインすることを学んだ。店といっても独立した建物の場合もあれば、百貨店の中に入る場合もある。妹尾河童さん、朝倉摂さんに憧れていた。

#### (4) 卒業後の進路

——建家やその周辺のオープンスペースなども設計？

舞台芸術が好きだったが、商業空間デザインの大阪の白水社という計画・設計をする会社に入った。バブルの頃で、商業空間のメインは百貨店とか大きなビルにテナントとして入ることが多かった。路面店の一戸の店などもあったが、圧倒的に百貨店の新築やリニューアルが多かった。総リニューアルなら、どんなテナント配置や空間計画にしていけるか、どんどんやって行くような時代だった。より良い場所を取り合うとか、例えば子供服でも良い場所、エレベーター前のロケーションを貰いたいために店舗計画をアピールしたい、という風に。

フロア全体の設計を統括するのは百貨店側で、そのセクションの方が百貨店側の方針・方向性でコントロールされるので、その中にメーカー側（テナント）として提案を持って行く。

——その仕事はご自分に合っていましたか？

一生懸命いろんな所に行って、店が立ち上がるまでやって、楽しくやり甲斐もあったが、建物の中という限られた空間に決まったものを入れていくというだけ、という気がして少し疑問が湧いてきた。かなり狭い範疇での自由設計で、何平米の中にいくら棚を置いて商品を並べられるか、見せ場やディスプレイ、ビジュアス、ストックスペースをどこに、とかいう計画が主体だったので、自由が有るような無いような、まだ若かったし、もっと違う空間を求めたい、このままで良いだろうかと漠然と感じていた。

#### (5) 会下山プレイパークについて

高校の同級生手取義宏さんの熱意で立ち上げた。私は手取さんの奥様と高校水泳部と一緒に、たまたま同窓会で遊びにおいでと誘われ、そこでプレイパークの話が出た。その時は私も会社が変わって公園・緑地の方をやっていて、プレイパークには凄い魅力を感じていたが、実行するにはハードルが高そうに思っていた。手取さんのやりたい熱意に、できることは手伝うよと言っていた。最近、プレイパークの意味合いが広がっているが、一言で、子供たちが自分の意志で自由に思い切り伸び伸び遊べる場所を造ろうということです。公園でなくても森の中や駐車場でもやっているところもある。

子どもの遊びが最近変わったと言われているが、使用されている道具は昔ながらの子どもの頃に使ったものが沢山あり、子どものやりたいことは今も似ているので、ある物を工夫して作ったり、鋸をかけたたりしている。公園は絵を描いたりし

**会下山プレイパーク** フェイスブック「会下山プレイパーク」のページをみてね！

**10月27日(土)**

時間：午前10時～午後3時 雨天中止  
場所：会下山公園大屋根のある広場（標はとめられません）

みんなでドッジボールしようかな？  
それとも、のこぎりやのこぎりを使って木工作をしようか？  
公園の水を使ったハンモックやブランコにチャレンジするの面白いね！  
お昼は、保護者や家族で予定です  
会下山プレイパークでやりたいことをやってみよう！

会下山公園植物観察会  
講師：高野哲司先生  
「ねずみのおをさがそう！」  
ねずみのおで遊ぼう！  
◆時間 13:00～14:00◆  
参加する人は  
午後1時に大屋根の下に集合！  
帽子、水筒をもって来てね

プレイパークは  
自分の責任で  
自由に遊ぶ  
みんなの遊び場です

■協賛：兵庫県立少年奉仕団の里塚広場施設協議会  
■協力：神戸市建設局中野建設事務所 会下山公園施設委員会  
会下山地区まちづくり協議会 会下山公園愛護会  
財団法人兵庫県建設士会神戸支会 神戸青年会議所  
神戸環境教育推進協会 兵庫県建設業協会

★問合せ  
会下山プレイパークの会 手取義宏  
でん 078-531-7296  
todoridcc.osaka-kyo@ku.ac.jp

て自由な場所なのに、今はできないというような状況が多々ある中で、会下山プレイパークのような場所は貴重だと思う。紹介案内するチラシは私が作っています。

## 2. ミュージック

お送りしている曲は、WMIBA（ワールド・ミュージック・インターネット放送協会）より提供いただいた、アーティスト矢尾浩子さんの「青空」です。

## 3. ゲストコーナー（2）

### （6）都市環境計画研究所（現、都市環境ランドスケープ）について

最初の会社を辞めて、都市環境計画研究所という公園・緑地の計画や設計をやっているところへ変わった。今、会社名は都市環境ランドスケープに変更された。ランドスケープの意味はかなり幅広く、日本語で言う「景観」です。概念的には、神戸で背後の山を如何に綺麗に見せるか、どんな手法・ルール・約束事でやるのか、身近なところでは公園の中をどうするかもランドスケープの一環で、景観を構成するものや都市全体も景観と言える。

社長の長谷川弘道さんは福井出身で、一人で会社を立ち上げ、自分の信念を伝えて仕事を貰ってやってきた。ランドスケープに対しては「愛とロマン」と言って何でも乗り越えてきた。長谷川さんの描いたスケッチにかなり魅せられて影響を受けてきた。私も今ワークショップを通じての計画づくりに取り組んでいるが、これも社長から教えて貰ったことです。

この会社で20年やってきたが、色々やったプロジェクトの中では、入社直後の震災を挟んで取り組んだ兵庫駅南のキャナルタウン、駅南公園と結んだキャナル（運河、水路）を活かした景観づくりです。入社したてで消しゴム掛けぐらいしか携わっていないが、社内では海外へ視察に行ったり研究したり議論したりして、キャナルの概念・形も次々と変わってくるのを目の当たりにした。

キャナルを活用している「兵庫駅南公園こどもフェスタ」の様子を見て、子どもさんや親御さんたちがゆったり遊ばれているのは嬉しかった。キャナルが見て綺麗なのはそれでも良いが、予想もしていなかった使い方でも活用され賑わっているのは感動的で、地域ぐるみで考えて色々な使い方ができるようになり、魅力が増えた公園になった。自分で考えていたことが実現していると思った。昨年亡くなられた長谷川社長の恩恵会で、こどもフェスタの写真をみんなに見てもらった。

——こどもフェスタ企画者（くらら）としては、兵庫区には公営プールは無く、保育所を開放してもらったり他区に出向かねばならないが、入れないと思っていたキャナルが活用出来る状況には本當びっくりしている。

着眼点が住んでいる方のものならではと思っている。行政も協力的で、住民に活用して貰いたいというムーブメントがあった。公園も、犬猫の散歩だけで臭い汚いのであれば、親も子どもに行ってはいけないと言わせるような場所では困る。

——公園とか緑道を設計するのはどのような手順で？

通常は、現地の状況を把握し、地形とか今無くても昔あったものとか歴史的な観点を加え、人の動き

を掴むのに併せて、動物や植物のことも考える。その次に、ゾーニング、間取り、利用想定からどんな施設・設備が要るのかなどから図面を起こしていく。

地域の人の意見をワークショップで聞いて考える、これは神戸では震災以後に多くなった。計画段階で地域の方と一緒に調査したり、利用の方法を教えて貰ったり、今の利用はこうだが将来はこう使いたいとか希望を聞いて、ステップ・バイステップで何回かワークショップをやってから、私たち専門家集団が計画案に纏める。

——具体的な事例を紹介ください。

尼崎の潮江緑遊公園で、キリンビール工場の跡地の区画整理事業の中の都市公園です。兵庫駅南公園と同じくらいの広さで、形もわりと似ている。

ここでは4回ワークショップを開いた。

- ①初め工事中の現地に地域の方と入り気付いたことを聴く、
- ②どういう目標でこの公園の理念を考えているか
- ③それを基に地域の方と図面を描いてみる
- ④それを纏めて模型を示して、最終的な意見を求める。

入口に卵形の広場（芝生ではない）を造ろう、公園の真ん中には誰でも使える芝生にしよう、公園を使わない人も何気なく公園を楽しめるような外周路をと希望されて盛り込んだ。卵形広場のほか水辺の環境とか、どんな子どもでも遊べる空間にとユニバーサルな遊具を回廊沿いに配置した。



(株)都市環境ランドスケープ在籍中の仕事

ワークショップを開いていて何時も感じることは、地域の方の言うことは大概的を得ていると思う。

この様なやり方をしなかった平成6年以前には、役所の専門部署と私たちコンサルタント・設計者が相談して、あの地域ならこういう案が望まれるだろう、と良かれと思って計画案をつくり、地元を示して意見があれば一言二言いただくようにやっていた。その時にはもう予算も決まっており、動かしにくい状態であった。今は早めに地域の方のご意見を聴く「プロセスこそデザイン」になっている。

### (7) ながた緑プロジェクト

昨年からはまったプロジェクトで、私が今年からサポーターとして関わっている。地域で活動される方々に私の得意な支援内容を提示して、みなさんのアイデアを図面や絵にしたり広報したりしている。具体的には、長田区の最北部に位置する獅子ヶ池の里山整備活動に定期的に行ったり、長田南部の街づくりの方と街歩きなど。まずは真野地区まちづくり推進会の方と、地域緑化を進めるには地域にある7つの小公園から始めようとフィールドワークを行なった。公園を調べて、木が多いとか無いとか、植栽の現状とどうしたいか希望の把握から始めた。

緑が何%増えたとか緑化推進も重要だが、このプロジェクトの目標には獅子ヶ池と南地域との交流連携を生むことがある。南部の真野小、真陽小、駒ヶ林小の子供たちは丸山ひばり小が参加して、子供たちが一緒にグループになって食事をしたり遊んだりし、そして獅子ヶ池で育てた緑をみんなの街へ植えようというプロジェクトです。長田区内のことを手がけたのは高校卒業以来始めてだった。



### (8) 東遊園地再整備事業

この事業には大阪の会社が請けたその下請けで、設計コンサルタントとして関わっている。東遊園地再整備検討委員会があって、地域の街づくりの代表の方や、歴史、都市プロモーション、公園計画、都市計画、交通計画など専門的な分野の先生方が委員に加わり、そこで色々な観点からの意見を集め、東遊園地のあり方やどのように推進して行くかなど検討している。私はその事務局側として関与している。

色々な検討を加えて事業を進めるが、例えば先生方の着眼点とか、社会実験として市民のアーバンピクニックを導入したり、市の緑化に関する芝生化の実験とか種々あって、これらの情報を総合して計画を立てる上での可能性など検討している。将来像としての目標が定まったかなという辺りで、その検討のための資料づくりの段階であり、未だ図面を描くところまでいっていない。検討委員会の専門的な見地だけで決定される訳ではなく、色々なアプローチがあって、これから違う円卓(プラットフォーム)で話し合われて行く。

一つの大きなキャッチフレーズとして「市民が自由に使える伸びやかな器を創ろう、そして創りすぎ

ないように」はオーソライズされていると思う。大きなイベントもやれる、小さな子ども連れの母親がシャボン玉遊びもできる、絵本を読み聞かせられる場所にもなるなど、こういった形の利用にも対応できるようにと検討している。素晴らしくデザインされた今の東遊園地公園だが、完成されすぎているんじゃないかなと思う。

#### (9) 公園・緑地に対する思い

公園は、誰でも自由に使えるみんなのオープンスペースであることで、都市において最も可能性を持った場所です。建築物とかだと用途が決まってしまうが、公園には限りない可能性が有る。それをコントロールし、創り上げて行くのは地域の方々です。そのお手伝いができれば良いと思っている。

一番大事と考えるのはプロセスデザインで、ワークショップとかで地域の方の意見・声をちゃんと入れられる時間割・プロセスをつくり、その中で専門家としてのデザインを加えて行きたい。

——現在の公園の利用に色んな縛りがあることについては、どう思うか？

色んなところのワークショップでよく聴く意見には「うちの所ではダメダメ公園にしたくない」がある。とにかく公園内では、ボール遊び、火遊び、大声など何々してはいけないとか、近隣の方にとっては迷惑を感じている方もいるからと思うが、本来はそんなダメダメルールは不要で、自由に使えるスペースであるべきです。これらは地域に関わる人次第で回避できると思う。本来は使う人がルールをつくるもので、ダメなことばかり書かざるを得ないオープンスペースでは、みんなのスペースを何の役にも立たない場所になっていることを、もっと問題意識をもって関わる人が自分のこととして改善しないと解決しない。もっと有効に活用できるし、楽しめるし、遊べるし、賑わいも出てくる。

——子どもフェスタは、私たち(利用する地域の人)と行政がタイアップして実現できたことと思う。

公園は自由に使おうという感覚がなく、誰かが管理していてルールに従って使う場所と思い込んでいるが、子どもが遊ぶ場所で親も何かができる場所と思って欲しい。

#### 4. 地域瓦版

- ・「第9回まちの文化祭」が11月25日、10時～16時、ふたば学舎で開催されます。屋台、舞台、展示のほか、野外イベントではコーベリーズのステージや特別企画のグランドイベントがあります。
- ・「神戸長田文化賞」の授与式が同日ふたば学舎で行われます。授与式後に奨励賞を受賞された金子優さんのダンスの記念パフォーマンスがあります。

放送音声は、FMYYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。

<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51>

<http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/>